

天の大法廷

預言者ダニエルは次のように言っている。「**わたしが見ていると、／もろもろのみ座 the thrones^oが設けられて、／日の老いたる者が座しておられた。その衣は雪のように白く、／頭の毛は混じりもののない羊の毛のようであった。そのみ座 his throne は火の炎であり、／その車輪は燃える火であった。彼の前から、ひと筋の火の流れが出てきた。彼に仕える者は千々、／彼の前にはべる者は万々、／審判を行う者はその席に着き、／かずかずの書き物が開かれた**」(ダニエル 7 : 9、10)。

→ダニエル書 7 : 9~10 (新共同訳)

なおお見していると、／王座が据えられ／「日の老いたる者」がそこに座した。その衣は雪のように白く／その白髪は清らかな羊の毛のようであった。その王座は燃える炎／その車輪は燃える火／その前から火の川が流れ出ていた。幾千人が御前に仕え／幾万人が御前に立った。裁き主は席に着き／巻物が繰り広げられた。

こうして、人々の品性と生活が、**全地の裁判官であられる神の前**で調査され、各人が「そのしわざに応じ」て報いられる重大で厳粛な日が、**預言者の幻 (→預言)** に示された。日の老いたる者とは、父なる神のことである。詩篇記者は、「山がまだ生れず、あなたがまだ地と世界とを造られなかったとき、とこしえからとこしえまで、あなたは神でいらせられる」と言っている(詩篇 90 : 2)。万物の根源であり、すべての律法の源であられるお方が、審判をつかさどられる。そして、「万の幾万倍、千の幾千倍」の聖天使たちが、仕える者、また証人として、この大法廷に列席するのである。

「**わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた。彼に主権と光栄と国とを賜い、諸民、諸族、諸言語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、なくなることがなく、その国は滅びることがない**」(ダニエル 7 : 13、14)。

→ダニエル書 7 : 13~14

夜の幻をなおお見していると、／見よ、「人の子」のような者が天の雲に乗り／「日の老いたる者」の前に来て、そのもとに進み 14 権威、威光、王権を受けた。諸国、諸族、諸言語の民は皆、彼に仕え／彼の支配はとこしえに続き／その統治は滅びることがない。

ここに描かれているキリストの来臨は、キリストが地上に再臨されることではない。キリストは、天において日の老いたる者のもと(下図の第2室=至聖所)に来られるのであって、それは、彼の仲保者としての働きが終わるときに与えられる「**主権と光栄と国**」とお受けになるためである。

2300日の(夕と朝)の終わりである**1844年に起こると預言されたのは、この来臨のことであって、キリストが地上に再臨されることではなかった。(この時)われわれの大祭司は、天使たちを従えて、至聖所に入り、神のみ前で、人類のための彼の最後の務めをなさる**。それは、**調査審判の働き**であり、贖罪の恵みにあずかる資格があることを示したすべての人のために贖いをなさることである。

象徴的儀式においては、告白と悔い改めによって神の前に出て、その罪が罪祭の血によって聖所に移された者だけが、贖罪の日の儀式にあずかることができた。そのように、**最終的な贖罪と調査審判の大いなる日に、審査されるのは、【神の民と称する人々】だけである**。悪人の審判は、これとは全く別の働きで、もっとあとで行われる。「さばきが神の家から始められる時がきた。それが、わたしたちからまず始められるとしたら、神の福音に従わない人々の行く末は、どんなであろうか」(Iペテロ 4 : 17)。

天の書物

天には、人々の名と行為を記録した書物があって、審判の決定は、それによってなされる。①預言者ダニエルは、「**審判を行う者はその席に着き、かずかずの書き物が開かれた**」(→ダニエル書 7 : 10) と言っている。②ヨハネも、この同じ光景を描写して、「**かずかずの書物が開かれたが、もう1つの書物が開かれた。これはいのちの書**」(→新共同訳：命の書)であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた」と言っている(黙示録 20 : 12)。

→また、死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた(黙示録 20 : 12)。

命の書(→いのちの書)には、神の働きをしたすべての人の名が記されている。イエスは、弟子たちに「あなたがたの名が天にしるされていることを喜びなさい」と言われた(ルカ 10 : 20)。**パウロは、忠実な同労者の名が『いのちの書』に……書きとめられている**と言っている(ピリピ 4 : 3)。ダニエルは、「かつてなかったほどの悩みの時」を予見して、「**あの書に名をしるされた**」すべての**神の民は救われる**と言っている(→ダニエル書 12 : 1)。

また、ヨハネは、**神の都に「はいれる者は、小羊のいのちの書に名をしるされている者だけである**」と言っている(ダニエル 12 : 1、黙示録 21 : 27)。

→ダニエル書 12 : 1

その時、大天使長ミカエルが立つ。彼はお前の民の子らを守護する。その時まで、苦難が続く／国が始まって以来、かつてなかったほどの苦難が。しかし、その時には救われるであろう／お前の民、あの書に記された人々は。

→ヨハネの黙示録 21 : 27

しかし、汚れた者、忌まわしいことと偽りを行う者はだれ一人、決して都に入れない。**小羊の命の書に名が書いてある者だけが入れる**(KJB:but they which are written in the Lamb's book of life)。

【参考】命の書

詩編	69:29 命の書から彼らを抹殺してください。あなたに従う人々に並べて/そこに書き記さないでください。
フィリピの信徒への手紙	4:3 なお、真実の協力者よ、あなたにもお願いします。この二人の婦人を支えてあげてください。二人は、命の書に名を記されているクレメンスや他の協力者たちと力を合わせて、福音のためにわたしと共に戦ってくれたのです。
ヨハネの黙示録	3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。わたしは、彼の名を決して命の書から消すことはなく、彼の名を父の前と天使たちの前で公に言い表す。
	13:8 地上に住む者で、天地創造の時から、屠られた小羊の命の書にその名が記されていない者たちは皆、この獣を拜むであろう。
	17:8 あなたが見た獣は以前はいたが、今はいない。やがて底なしの淵から上って来るが、ついには滅びてしまう。地上に住む者で、天地創造の時から命の書にその名が記されていない者たちは、以前いて今はいないこの獣が、やがて来るのを見て驚くであろう。
	20:12 わたしはまた、死者たちが、大きな者も小さな者も、玉座の前に立っているのを見た。幾つかの書物が開かれたが、もう一つの書物も開かれた。それは命の書である。死者たちは、これらの書物に書かれていることに基づき、彼らの行いに応じて裁かれた。
	20:15 その名が命の書に記されていない者は、火の池に投げ込まれた。
21:27	しかし、汚れた者、忌まわしいことと偽りを行う者はだれ一人、決して都に入れない。 小羊の命の書に名が書いてある者だけが入れる。

but they which are written in the Lamb's book of life.

神の前に、「**覚え(の)書**」(→新共同訳：**記録の書**)が記されているが、それには、「**主を恐れる者、およびその名を心に留めている者**」の善行が記録されている(マラキ 3 : 16)。

→マラキ書 3 : 16

口語訳：そのとき、主を恐れる者は互に語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの**覚え書**がしるされた。

新共同訳：そのとき、主を畏れ敬う者たちが互いに語り合った。主は耳を傾けて聞かれた。**神の御前には、主を畏れ、その御名を思う者のために記録の書**が書き記された。

彼らの信仰の言葉、彼らの愛の行為は、(すべて) 天に記録されている。ネヘミヤは、このことについて、次のように言っている。「わが神よ、……わたしを覚えてください。……神の宮……のためにわたしが行った良きわざをぬぐい去らないでください」(ネヘミヤ 13 : 14)。**神の覚えの書**には、すべての正しい行為が(漏れることなく) 永久に記されている。誘惑を退けたこと、悪に打ち勝ったこと、憐れみの言葉をかけたことなどが、忠実に記録されている。また、すべての犠牲の行為(犠牲的行為)、キリストのために耐えたすべての苦しみ(苦難) や悲しみが記録されている。「あなたはわたしのさすらいを数えられました。わたしの涙をあなたの皮袋にたくわえてください。これは皆あなたの書にしているではありませんか」と詩篇記者は言っている(詩篇 56 : 8)。

また、(天には) **人々の罪の記録もある**。「神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである」(伝道の書 12 : 14)。救い主は次のように言われた。「審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう。あなたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである」(マタイ 12 : 36、37)。隠れた目的や動機もまちがいなく記録される。「主は暗い中に隠れていることを明るみに出し、心の中で企てられていることを、あらわにされるであろう」(I コリント 4 : 5)。「見よ、この事はわが前にしるされた、……『彼らの不義と、彼らの先祖たちの不義とを共に報い返す』と主は言われる」(イザヤ 65 : 6、7)。

すべての人の行為は、神の前で調査され、忠実であったか不忠実であったかが(記録天使によって) 記録されている。天の書物の中の各自の名の向かい側には、恐るべき正確さで、すべての悪い言葉、利己的な行為、義務の怠慢、隠れた罪、巧妙な偽善行為などが記入されている。天からの警告や譴責をなおざりにしたこと、時間を浪費し、機会を活用しなかったこと、善きにつけ悪しきにつけ、及ぼした感化とその広範囲にわたる結果などがみな、記録天使によって記録されている。

助け主キリスト

神の律法が、審判の時に人々の品性と生活を吟味する基準である。賢者は「神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである」と言っている(伝道の書 12 : 13、14)。使徒ヤコブは、兄弟たちに、「だから、自由の律法によってさばかるべき者らしく語り、かつ行いなさい」と勧告している(ヤコブ 2 : 12)。

審判において、「あずかる(→与かる：関わる) にふさわしい」とされた者は、義人の復活にあずかる。「かの世にはいつて死人からの復活にあずかるにふさわしい者たちは、……天使に等しいものであり、また復活にあずかるゆえに、神の子でもあるので、もう死ぬことはあり得ない」とイエスは言われた(ルカ 20 : 35、36)。彼は、また、「善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえ」って出てくると宣言しておられる(ヨハネ 5 : 29)。つまり、死んだ義人は、審判がすみ「生命を受けるためによみがえ」るにふさわしい者とされるまでは、復活することはない。したがって、彼らの記録が調査され、運命が決定される時に、彼ら自身はその法廷にはいないのである。

イエスは彼らの助け主(→弁護者)として、神の前で、彼らのためにとりなしをなさる。「もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」(I ヨハネ 2 : 1)。「ところが、キリストは、ほんとうのものの模型にすぎない、手で造った(地上の) 聖所にはいらなくて、上なる天にはいり、今やわたしたちのために神のみまえに出て下さったのである。」「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである」(ヘブル 9 : 24、7 : 25)。

審判において、記録の書が開かれる時に、イエスを信じたすべての人の生涯が神の前で調べられる。われわれの助け主であられるイエスは、この地上に最初に生存した人々から始めて、各時代の人々のためにとりなし、現在生きている人々で終わられる。すべての名があげられ、すべての人の(名前があげられ) 事情が詳しく調査される。受け入れられる名もあれば、拒まれる名もある。もしだれかが、**罪を**

悔い改めず、(神から) 赦されないまま、記録の書に残しておくならば、彼らの名は、いのちの書から消されて(→消し去られて)、彼らの善行の記録も神の覚えの書から消される。「すべてわたしに罪を犯した者は、これをわたしのふみから消し去るであろう(→新共同訳：わたしに罪を犯した者はだれでも、わたしの書から消し去る)」と主はモーセに言われた(出エジプト 32 : 33)。また預言者エゼキエルも言っている。「しかし義人がもしその義をはなれて悪を行い、悪人のなすもろもろの憎むべき事を行うならば、生きるであろうか。彼が行ったもろもろの正しい事は覚えられない」(エゼキエル 18 : 24)。

キリストの血による勝利

真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、**罪の赦し**が書き込まれる(have had pardon entered against their names)。彼らは、キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので、**彼らの罪は、ぬぐい去られ**(their sins will be blotted out)、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされるのである。

(このことについて) 主は、預言者イザヤによって、こう宣言しておられる。「**わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない**」(イザヤ 43 : 25)。

→イザヤ書 43 : 25

わたし、このわたしは、わたし自身のために／あなたの背きの罪をぬぐい／あなたの罪を思い出さないことにする。

イエスは、次のように言われた。「**勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう。**」「**だから人の前でわたしを受けいれる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受けいれるであろう。しかし、人の前でわたしを拒む者を、わたしも天にいますわたしの父の前で拒むであろう**」(黙示録 3 : 5、マタイ 10 : 32、33)。

→ヨハネの黙示録 3 : 5

勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。わたしは、彼の名を決して命の書から消すことはなく、彼の名を父の前と天使たちの前で公に言い表す。

→マタイによる福音書 10 : 32~33

「だから、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。33 しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う。」

人々は、地上の法廷の判決に(対して)深い関心を示すのであるが、しかしそれも、いのちの書にその名を記された人々が、全地の審判者の前で調査される時の天の法廷における関心とは、とうてい比較にならない。仲保者イエスは、彼の血を信じる信仰によって勝利したものがみな、その罪を赦され、再びエデンの家郷にもどって「以前の主権」を彼とともに継ぐ者となるように、嘆願されるのである(ミカ 4 : 8)。

→ミカ書 4 : 8

羊の群れを見張る塔よ、娘シオンの砦よ／かつてあった主権が、娘エルサレムの王権が／お前のもとに再び返って来る。

サタンは、人類をあざむき、誘惑することによって、人類創造における神のご計画を挫折させようと考えた。しかし、キリストは今、人間が墮落しなかったかのように、この計画の実行を求められるのである。キリストは、ご自分の民のために、完全で十分な赦しと義認だけでなく、彼らが、ご自分の栄光にあずかり、ともにみ座につくことを求められるのである。

イエスが、彼の恵みに浴する人々のために嘆願される一方において、サタンは、彼らを罪人として神の前に告訴する。大欺瞞者サタンは、彼らに疑惑を抱かせ、神に対する信頼を失わせ、神の愛から彼ら

を引き離し、神の律法を犯させようとしてきた。そして今度は、サタンは、彼らの生涯の記録を指摘し、品性の欠陥、贖い主（イエス・キリスト）のみ栄えを汚したところの、キリストに似ていない点、そして、彼が誘惑して彼らに犯させたすべての罪を指摘して、これらのことのゆえに彼らは自分の臣下であると主張するのである。

（これに対して）イエスは、彼らの罪（について）の弁解はなさないが、彼らの悔い改めと信仰を示して、彼らの赦しを主張なさり、天父と天使たちの前で、ご自分の傷ついた両手をあげ、わたしは彼らの名を知っている、わたしは彼らを、わたしのたなごころ（一掌：てのひら）に彫り刻んだ、と言われるのである。「神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心をかろしめ（一軽しめ）られません」（詩篇 51：17）。そして、ご自分の民を訴える者にむかって、「サタンよ主はあなたを責めるのだ。すなわちエルサレムを選んだ主はあなたを責めるのだ。これは火の中から取り出した燃えさしではないか」（一リビング・バイブル：主はサタンに言いました。「サタンよ、おまえの訴えは退ける。私、主が、エルサレムに情け深くすると決めたので、おまえを非難する。ヨシユアとその民を助けると決めた。彼らは火の中から取り出した燃えさしのようなものだ」）。キリストは、忠実な人々に、ご自分の義の衣を着せて、父なる神の前に「しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会」として立たせてくださる（エペソ 5：27）。彼らの名は、（永久に）いのちの書に書きとめられる。そして彼らについて、「彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩み続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である」と記されているのである（黙示録 3：4）。

こうして、新しい契約が完全に成就する。「わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない。」「主は言われる、その日その時には、イスラエルのとがを探しても見当らず、ユダの罪を探してもない」（エレミヤ 31：34、50：20）。「その日、主の枝は麗しく栄え、地の産物はイスラエルの生き残った者の誇り、また光栄となる。そして……シオンに残るもの、エルサレムにとどまる者、すべてエルサレムにあって、生命の書にしるされた者は聖なる者となえられる」（イザヤ 4：2、3）。

→イザヤ書 4：2～3

その日には、イスラエルの生き残った者にとって主の若枝は麗しさとなり、栄光となる。この地の結んだ実は誇りとなり、輝きとなる。3 そしてシオンの残りの者、エルサレムの残された者は、聖なる者と呼ばれる。彼らはすべて、エルサレムで命を得る者として書き記されている。

調査審判と罪の除去

調査審判と罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない。しかし（→このことについて）、使徒ペテロは、はっきりと、信者の罪は、「主のみ前から慰め〔原文では refreshing（活気づけ、回復の意）〕の時が」くる時にぬぐい去られる。そして、「キリストなるイエスを、神がつかわして下さる」と言っている（使徒行伝 3：19、20）。

→使徒言行録 3：19～20

だから、自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。20 こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために前もって決めておられた、メシアであるイエスを遣わして下さるのです。

Repent ye therefore, and be converted, that your sins may **be blotted out**, when the times of **refreshing** shall come from the presence of the Lord;20And he shall send Jesus Christ, which before was preached unto you:

調査審判が終わると、キリストは来られる。そして、たずさえて来た報いを、それぞれの人の行いにしたがつてお与えになるのである。

（旧約時代の）型としての奉仕において、大祭司は、イスラエルのために贖罪をなし終えると、外に出て来て、会衆を祝福した。そのように、キリストも、仲保者としての働きを終えられると、「罪を負うためではなしに……救いを与える」ために来られて、彼を待っている人々に永遠の生命をお与えになる（ヘブル 9：28）。祭司（→大祭司）が聖所から罪を除去した時に、アザゼルの山羊の上にそれを

告白したように、キリストは、罪（→罪悪）の創始者であり煽動者であるサタンの上に、これらの罪をすべて置かれるのである。アザゼルの山羊は、イスラエルの罪を（背）負って、「人里離れた地」に送られた（レビ 16：22）。そのように、サタンは、自分が神の民に犯させたすべての罪を背負って、1000年の間、この地上に監禁される。地上はその時、荒れ果てて住む者もない。そして彼は、ついに、すべての悪人を滅ぼす火の中で、罪の刑罰を余さず（→そっくりそのまま）受ける。こうして、罪は最終的に除去され、進んで悪を捨て去った人々がすべて救われて、贖いの大計画は完成するのである。

審判が指定されていた時、すなわち、**2300日の終わる1844年に、調査と罪の除去の働きが始まった。これまでにキリストの名をとらえたことのある者はすべて、この厳密な審査を受けなければならない。生きていても死んだ者もともに「そのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって」裁かれる。**

悔い改めず棄て去っていない罪は、赦されず、記録の書からぬぐい去られない。それは、神の大いなる日に、罪人に不利な証言をする。その悪行は、昼の明るみで行われたものかもしれないし、あるいは夜の暗やみの中で行われたものかもしれない。しかし、いずれにしてもそれらは、われわれが申し開きをしなければならない神の前には、そのままはっきりとあらわれていた。神の天使たちが、1つ1つの罪を目撃し、それを誤りなく記録した。罪は、父母や妻子、そして同僚たちからは、隠し、否定し、秘密にしておくことができるかもしれない。罪を犯した者たち以外は、だれもその罪悪を疑ったりなどしないかもしれない。しかし、天の知的存在者たちの前には、それはあらわにされている。どんなに暗い夜の暗黒も、極秘の（→巧みな）欺瞞的手段も、永遠の神から1つの思いすら隠すものとはならないのである。神は、すべての不正な計算、不正な取引を、正確に記録しておられる。神は、信心深い様子に欺かれる（≡誤魔化される）ことはない。神は品性の評価において、決して誤られることはない。人間は、心の汚れた人々に欺かれるかもしれないが、神は、すべての見せかけを見破り、内的生活を読みとられる。

さばきの厳粛さ

これは、なんと厳粛な思想であろう。毎日毎日が永遠の中に過ぎ去り、その日のことが天の書に記録される。1度口に出した言葉、1度行った行為は、2度と取り返すことができない。天使は、善悪ともに記録しているのである。この世のどんなに偉大な征服者でも、ただ1日の記録さえ取り消すことはできない。われわれの行動、言葉、そして極秘の（→奥深く秘めた）動機でさえも、みな、われわれの運命を禍福いずれかに決定する重要な役割を持っている。たとえわれわれが忘れていても、それらは、義とするかそれとも罪に定めるかの、証言を立てるのである。

芸術家のよく磨かれた金属板に、人間の顔かたちが正確に反映されるように、人の品性も天の書物に、そのまま描写されている。にもかかわらず人々は、天の存在者たちに見られねばならないその記録について、憂慮することのなんと少ないことであろう。もし、見える世界と見えない世界とをへだてている幕が取り除かれて、人々が、審判において再び直面しなければならないすべての言行を、天使たちが記録しているのを見ることができれば、日ごとに語られるどれだけ多くの言葉が、語られずすみ、どれだけ多くの行為が、なされずすみことであろう。

審判の時には、すべての才能の用途がくわしく調べられる。われわれは、天から貸し与えられた（財産や力量などの）資本をどのように用いたであろうか。主は、（再び）来られる時に、ご自分のものを利子とともにお受けになるであろうか。われわれは、肉体的、精神的、知的に託された力を活用して、神に栄光を帰し、世界に祝福をもたらしたであろうか。われわれは、時間、筆、声、金銭、影響力などを、どのように用いたであろうか。貧しい人、苦しんでいる人、孤児や寡婦を助けて、キリストのために何をしてきたであろうか。神はわれわれを、神のみ言葉の保管者となさった。そしてわれわれは、救いに至る知識を人々に伝えるために、われわれに与えられた光と真理を、どのようにしてきたであろうか。キリストを信じるとただ表明するだけではなんの価値もない。行為にあらわされた愛だけが、本物とみなされる。神の目の前で、行為を価値あるものにするのは、愛だけである。愛によって行われたこ

とは、人間がどんなに低く評価しようとも、神に受け入れられ、報われるのである。

人々の隠れた利己心（→自分の利益だけを考え、他人のことを顧みない心）が、天の書の中であらわにされている。同胞に対して義務を怠ったことが記録され、救い主の要求を忘れたことが記録されている。キリストに属する時間、思想、能力を、なんとたびたびサタンに与えたかを、彼らはそこに見るのである。天使が天にたずさえて行く記録は、実に悲しいものである。キリストの弟子であると称する英知ある人間が、世的財産の蓄積や、地上の快樂の追求に没頭している。金銭、時間、能力は、虚飾と放縱（→ほうしょう：思うままにふるまうこと）の犠牲になっている。しかし、祈りや聖書研究にあてられる時間、魂のへりくだりと罪の告白にあてられる時間は、ほとんどないのである。

サタンは、数えきれないほど多くの策略を考え出してわれわれの心を捕え、われわれが最もよく知っていない働きのものについて、われわれに考えさせまいとしている。大欺瞞者サタンは、贖罪の犠牲と全能の仲保者を明らかにする大真理を憎んでいる。イエスと彼の真理から人々の心をそらすことに、万事がかかっていることを、彼は知っているのである。

救いの計画に不可欠なもの

救い主の仲保の恵みにあずかりたいと思うものは、神を恐れつつ聖潔を完成していくというその義務を、何ものにも妨げられてはならない。貴重な時間は、快樂や虚飾、または利益の追求に費やすのではなくて、真理の言葉を熱心に、祈りとともに研究するために用いなければならない。聖所と調査審判の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大いなる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあって必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。

1人1人の魂は、救われるか、滅びるか、そのどちらかなのである。各自は、今、神に裁かれようとしている。各自は大いなる審判者と顔を合わせなければならない。とするならば、審判が始まり、かざかずの書物が開かれる厳粛な時のことを、ダニエルとともに、定められた日の終わりに立って、自分たちの分を受けねばならない厳粛な時のことを、たびたび瞑想することは、すべての者にとってどんなにか重要なことであろう。

こうした問題について光を受けた者はみな、神が彼らにゆだねられた大いなる真理について証言しなければならない。天の聖所は、人類のためのキリストのお働きの中心そのものである。それは、地上に生存するすべての者に関係している。それは、贖罪の計画を明らかにし、われわれをまさに時の終わりへと至らせて、義と罪との戦いの最後の勝利を示してくれる。すべての者が、これらの問題を徹底的に研究し、彼らのうちにある望みについて説明を求める人に答えることができるようにすることは、何よりも重要なことである。

天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである。キリストは、ご自分の死によって開始された働きを、復活後、天において完成するために昇天されたのである。われわれは、信仰によって、「わたしたちのためにさきがけとなって、はいられた」幕の内に入らなければならない（ヘブル 6：20）。そこには、カルバリーの十字架からの光が反映している。そこにおいて、われわれは、贖罪の奥義について、もっとはっきりした理解を持つことができる。人間の救済は、天が無限の価を払うことによって達成された。払われた犠牲は、破られた神の律法の最大限の要求に相当するものである。イエスは、父なる神のみ座への道を開かれた。そして、信仰によって彼に来るすべての者の心からの願いは、彼のとりなしによって、神の前にささげられるのである。

「その罪を隠す者は栄えることがない、言い表してこれを離れる者は、あわれみをうける」（箴言 28：13）。自分たちの過ちを隠し、言いわけをする人々が、もし、サタンが彼らのことでどんなに喜び、そうした彼らの行為のゆえにキリストと聖天使たちをどんなに嘲笑するかを見ることができれば、彼らは、急いでその罪を告白し、捨て去ることであろう。品性の欠陥を通して、サタンはその人の心全体を支配しようと働きかける。彼は、人がこれらの欠陥に固執するならば、自分が成功を収めることを知っている。それだから彼は、欠陥に打ち勝つことは不可能であるという致命的な詭弁をもって、

キリストに従う人々を欺こうと、いつもけんめいになっている。しかしイエスは、彼の傷ついた手と砕かれた体をもって、彼らのために嘆願される。そして、彼に従ってくるすべての者に「わたしの恵みはあなたに対して十分である」と宣言されるのである（Ⅱコリント 12：9）。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」（マタイ 11：29、30）。それだから、だれでも、自分たちの欠陥は不治のものであると思っ**てはならない**。神は、それらに打ち勝つ信仰と恵みをお与えになるのである。

今は大いなる贖罪の日

われわれは、今、大いなる贖罪の日に生存している。型としての儀式においては、大祭司がイスラエルのために贖罪をなしている間、すべての者は、主の前に罪を悔い改め、心を低くすることによって、身を悩まさなければならなかった。もしそうしなければ、彼らは、民の中から絶たれるのであった。それと同様に、**自分たちの名がいのちの書にとどめられることを願うものはみな、今、残り少ない恩恵期間のうちに、罪を悲しみ、真に悔い改めて、神の前に身を悩まさなければならない**。われわれは、心を深く忠実に探らなければならない。多くの自称キリスト者がいだいている軽薄な精神は、捨て去らねばならない。われわれを打ち負かそうとする悪癖に勝利しようとする者は、みな、はげしく戦わなければならない。**準備は、1人1人がしなければならない**。われわれは、団体として救われるのではない。1人の者の純潔と献身は、これらの資格を欠く他の人の埋め合わせにはならない。すべての国民が神の前で審判を受けるのであるが、しかし神は、あたかもこの地上にその人1人しかいないかのように、厳密に**1人1人を審査されるのである**。すべての者が調べられねばならない。そして、**しみもしわもそのたぐいのもがいっさいあってはならないのである**。

贖罪の働きが終結しようとする時の光景は、実に厳粛である。そこには、実に重大な意義が含まれている。審判は今、（正に）天の聖所において進行中である。長年にわたって、この働きは続けられてきた。間もなく—その時がいつかはだれも知らないが—生きている人々の番になる。神のおそるべき御前で、われわれの生涯が調査されねばならない。今は、他のどんな時にもまさって、**すべての者が救い主の勧告に心をとめるべき時である**。「気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである」（マルコ 13：33）。「もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない」（黙示録 3：3）。

調査審判の働きが終わる時、すべての人の運命は、生か死かに決定されてしまっている。恩恵期間は、主が天の雲に乗って来られる少し前に終了する。キリストは、その時を予見して、黙示録の中で次のように宣言しておられる。「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うまにさせよ。見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう」（黙示録 22：11、12）。

その時が来ても、義人と悪人は、その死ぬべき肉体のままで、地上で生活をしている。天の聖所では、最終的で取り消すことのできない決定が宣告されたことも知らずに、人々は、植えたり、建てたり、飲んだり、食べたりしている。洪水の前に、ノアが箱舟に入ったあとで、神は彼を舟の中に閉じ込め、神を恐れない人々を外に閉め出されたのである。しかし、人々は、7日の間、彼らの運命が決定されたことも知らずに、不注意な放縱の生活を続け、差し迫った審判の警告をあざけたのであった。「人の子の現れるのも、そのようであろう」と救い主は言われる（マタイ 24：39）。真夜中の盗人のように静かに、人に気づかれずに、すべての人の運命が定まる決定的な時、罪人に対する恵みの招きが最終的に取り去られる時がやって来る。

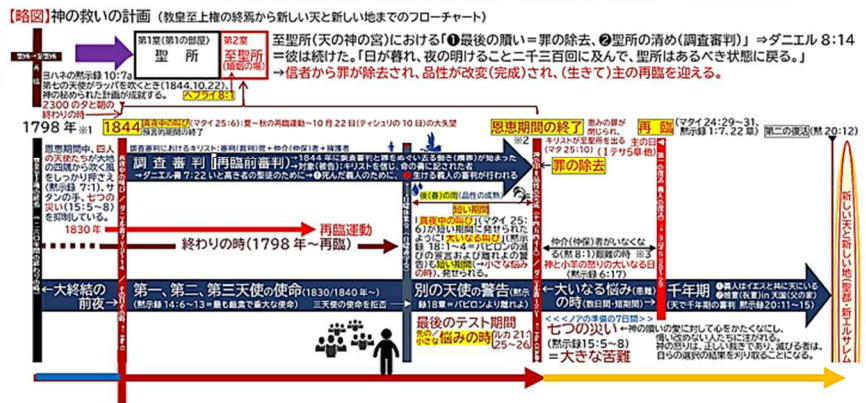
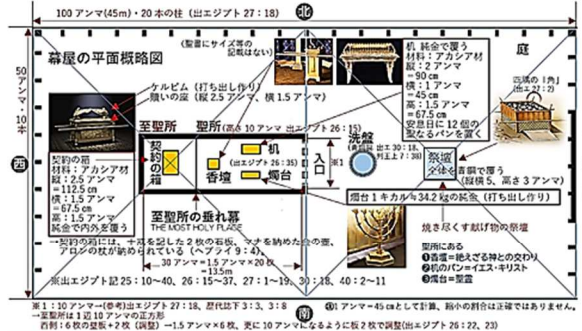
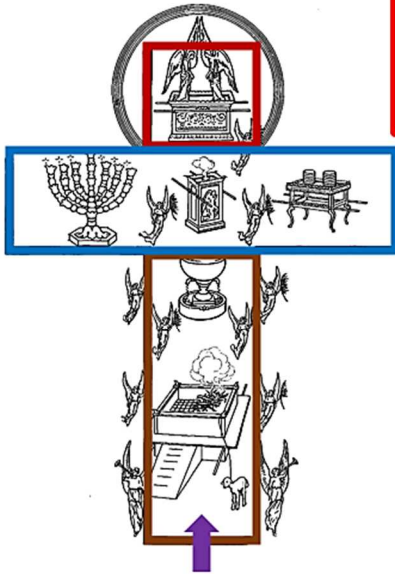
「だから、目をさましていなさい。……あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかもしれない」（マルコ 13：35、36）。目をさまして待つことにうみ疲れ（→倦み疲れ＝うんざりして疲れ）、世俗の魅力に心を向ける人々の状態は、実に危険である。実業家が利益の追求に

心を奪われ、快樂の愛好家が楽しみにふけり、流行を追う女性が身を飾っているそのときに、全地の審判者が、「あなたがはかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた（→イエス・キリストが神のはかりで量られ、審査に落ちた）」という宣言をなさるかもしれないのである（ダニエル 5：27）。

【参考資料】

☑ **神の裁き：①義人の救い/幸福 (主の裁き) ②悪人の滅び/敗北**
the judgement of God / his judgements

**幕屋
十字架
調査審判**



神の救いの計画 (教皇至上権の終焉から新しい天と新しい地までのフローチャート)

